

科目： 科目名	授業題目： 授業題目名
----------------	--------------------

担当者名：○河合太郎 神童一郎
1年生 前期 必修 2単位

種類には、教養教育・基礎教育・医療基盤教育のいずれかをいれてください。
科目区分と科目は、授業題目の所属をあらわします。全学教育科目の分類から選んでください。
授業題目は、とくに、教養教育、医療基盤教育では、授業の内容を具体的に表す題名をつけてください。
基礎教育では、学問名からくる科目名と一致しても結構です。
複数で、授業を担当するときは、授業責任者に○をつけてください。
必修・選択の区分も明らかにしてください。

【概要】

科目名のみでは内容がわかりにくい場合、どんな科目かなどの内容を文章で説明をしてください。できるだけ短く、簡潔に説明してください。たとえば、「この科目は、看護学を学ぶ基本として、人体を理解するために必須の人体の仕組みと働きを学ぶ。」など、科目の趣旨も表現できます。文体は、以下も「である」体としてください。専門性との関連を説明することも効果的です。全体のカリキュラムでの科目の位置づけ、意義なども表現するとよいでしょう。ただし、長くならないように。

【学習目標】

ここには、学生が授業を受けたて何ができるようになるかを箇条書きで表現します。一般目標と行動目標を箇条書きで表現してください。一般目標と行動目標は、専門用語ですので、この言葉は用いず、はじめに2, 3の一般目標、うしろにいくつかの行動目標を順に表現します。表現にはつぎの原則をふまえてください。

- 1) 一般目標は、一般目標は学習の成果を、概念的に表現します。
- 2) 学生を主語として書きますが、主語は省略します。
- 3) はじめに、学習の目的を明らかにするために、「・・・ために、」をいれてください。
- 4) 目標分類（認知・態度・技能）を総括的に含め
- 5) 複雑な概念をもつ動詞、総括的な概念をもつ動詞をもちいて表してください。
知る 認識する 理解する 感ずる 判断する 価値を認める 評価する
位置付ける 考察する 使用する 実施する 適用する 示す 創造する
身につける
- 6) 行動目標は「理解する」のような概念的言葉でなく、学習の結果えられる成果を観察可能な行動を具体的に表します。試験（成績評価）を想定するとよい。
- 7) 一般目標と関連しているはずです。
- 8) 全体をバランスよく含まれるようにしてください。
- 9) つぎのような、観察可能な動詞で、知識、態度・習慣、技能をわけて、到達レベルを表現してください。
また、各領域をバランスよく含めてください。

知識の領域

列記する 列挙する 述べる 具体的に述べる
説明する 分類する 比較する 対比する 類別する 関係づける 解釈する
予測する 選択する 同定する 弁別する 推論する 予測する 公式化する
一般化する 使用する 応用する 適用する 演繹する 結論する 批判する 評価す

態度・習慣の領域

行う 尋ねる 助ける コミュニケートする 寄与する 協調する 示す
見せる 表現する 始める 相互に作用する 系統立てる 参加する
反応する 応える

技能の領域

感ずる 始める 模倣する 熟練する 工夫する 実施する 行う 創造する
操作する 動かす 手術する 触れる 触診する 調べる 準備する 測定する

【学習内容】

目標を達成するために、順に授業をすすめます。これは学生の学習計画でもありますので、各回の授業内容を具体的に表現します。目標達成のために多様な授業法を駆使します。
授業方法もわかるようにします。宿題、中間試験も表現します。中間試験（形成評価）もおこない、互いの

フィードバック（授業の仕方、学生の学習の仕方途中把握）も重要です。
以下の枠に表現してください。

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	オリエンテーション	授業の目標と全体の流れを把握する。	河合太郎 神童一郎
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

【評価方法】

評価の方法を書き、それぞれの割合を書きます。
たとえば、レポート 20%・学習態度 10%・中間試験 30%・定期試験 40%
さらに具体的なことを書いてもよい。

【備考】

教科書
参考書
その他